

平成30年度 第1回学校評議員懇談会（兼SGH評価委員会）議事録

1. 期 日 平成30年6月14日（木）
2. 時 間 15:00～17:00
3. 会 場 長野高等学校大会議室ほか
4. 出席者 学校評議員4名
池田宇一氏（長野市民病院長）、中村正行氏（信州大学工学部教授）、藤井純子氏（東口メンタルクリニック臨床心理士）、吉池美幸氏（長野市PTA連合会副会長）

【アイウエオ順】

学校職員13名

5. 日 程 開会・学校説明 15:00～15:40
授業見学 15:40～16:10
懇談会 15:15～17:00

6. 懇談会内容（司会：山崎 記録：馬場：永井）

(1) 学校長より：高校再編、新学習指導要領、最近の学校（全日制・定時制）の様子、班活動の報告、SGH事業、進路状況について説明。

(2) 自己紹介

(3) 学校説明

①全日制の状況と課題

・腰原教頭：4月に実施した生活実態調査結果をもとに、生徒の状況を説明。

学校生活に満足している・学習活動に意欲的な生徒が10年前と比べると多い。

②SGH事業について

・小宮山SGH事業推進係主任：SGH事業の3年間の流れとポストSGHの課題について説明。

③定時制の状況と課題

・馬場教務主任：学年の年齢構成等、定時制の状況と課題について説明。

④進路状況について

・横山進路指導主事：平成29年度卒業生の進路状況について説明。

(4) 懇談（学校評議員の方からのご意見等）

①全日制の課題について

○SGH事業について

・池田委員：楽しそうな授業であったが、具体的に英語力が向上したのか。公的な試験の結果など、向上したという客観的なデータがあると外部にアピールできる。

・吉池委員：素晴らしい授業であった。ただ、台湾研修旅行のための授業とならないようにしてほしい。コミュニケーションをテーマにした班があった。面白いプレゼンテーションになることを期待している。

・中村委員：SGH の指定が終了するが、第2弾はあるのか。あるのであれば、申請の苦勞はあると思うが、是非応募してもらいたい。成果は十分に期待できる。

・藤井委員：毎年生徒は変わっていくが、SGH への姿勢は引き継がれており、教育の力を感じる。また、最初のころと比べると、発表・質問の仕方などレベルアップしている。受験対策だけではない生徒の成長が感じられる活動である。

・中村委員：上級生が後輩に対してアドバイスする機会が、引き継がれていくことにつながっていると思う。

○外部との連携について

・藤井委員：大学と高校、高校と小中の連携が大切である。高校生にとっては大学生とのつながりが将来の自分の目指すべき姿になり、小中学生にとっては長野高校の生徒が目標になる。

・池田委員：地元の大学との連携は良いことだと思う。

・中村委員：留学生との交流も考えてみてはどうか。

○ICT を活用した連携について

・中村委員：ICT を使った会議は確かに物理的距離は縮まるが、会議に慣れているかいないかで、話が一方通行になりがちであり、コミュニケーションの取り方としては難しい。会議ではなくもう少し気楽な感じで、例えば放課後の班活動のようなグループのレベルで、大学の研究室と情報交換してはどうか。

○その他

・池田委員：学校生活への満足度は高いが、なぜ高いのか、具体的なことまで掘り下げて調査してみてもどうか。SGH の活動が主な理由になっているかもしれない。

②定時制の状況と課題について

・中村委員：クラスの雰囲気は重要と考える。班活動を頑張る学年、教えあうような雰囲気がある学年は、いろいろところで結果が出てくると思う。

・池田委員：定時制生徒の目的が様々な中で、よく指導いただいている。

(5) 学校長より御礼の挨拶